



天文資料

2019年 6月号

令和元年度 第3号 (6月号)

令和元年 5月29日

発行：佐世保市少年科学館

佐世保市少年科学館



<大型の球状星団が見られます>

5月上旬の大型連休が終わりました。皆様のところも落ち着いた日常に戻ったところではないかと思えます。

今、南の方から少しずつ梅雨前線が北上しています。間もなく長崎県も梅雨入りの言葉が聞かれるようになるでしょう。

梅雨に入ると晴天の日は少なくなりますが、空気中のちりがたたき落とされるので晴れた日の夜は見事な星空が広がります。

今回は、球状星団と木星をご紹介します。球状星団は、狭い範囲に数十万個の恒星がボールのように集まった星団で、銀河系を取り巻くように散らばっています。その中で、大型のものがこの時期はよく見えます。双眼鏡でも、恒星と違ってぼんやりと輝く光のかたまりに見えますので、お手持ちがありましたらぜひ目を向けてみてください。

右の星図に主な球状星団の位置を示しました。

- ①M3 (りょうけん座)
- ②M13 (ヘルクレス座)
- ③M92 (ヘルクレス座)
- ④M5 (へび座)
- ⑤M10 (へびつかい座)
- ⑥ω (オメガ：ケンタウルス座)
- ⑦M4 (さそり座)



(M13)



国立天文台HPより

ω星団は球状星団の中で最大のもので、星と間違われたために恒星と同じような記号がつけられています。南に低いため、よく晴れた日でないとはっきり見ることができません。

木星は6月11日に「衝」となり、観望の好機を迎えます。さそり座の一等星アンタレスの赤色と

木星の金色は、南の空でとても目立つことでしょう。



<NASAの太陽探査機が太陽に接近！>

NASAによって昨年8月12日に打ち上げられた太陽探査機「パーカー・ソーラー・プローブ」が、10月31日から11月11日までの間、太陽に接近し、太陽風やコロナにまつわる科学的データを収集することに成功しました。写真はコロナから長く伸びる流線(ストリーマ)をとらえたもので、白い点は水星です。この探査機は、2024年に太陽まで600万キロ(太陽4個分の距離)まで近づいてデータを収集する予定です。(ニュースウィーク日本版 2018.12.18記事より)



この時は、太陽と水星の中間まで接近しました。